

「原子力施設の耐震安全性に係る新たな科学的・技術的知見の継続的な収集及び評価への反映等のための取組について」の報告概要

1. 検討内容

平成 21 年度における国の機関等の報告、学協会等の大会報告・論文、雑誌等の刊行物、海外情報等の公開情報を収集対象として、そのうち原子力施設の耐震安全性に関連する可能性のある情報について、原子力施設への適用範囲・適用条件、耐震安全性評価への反映の要否等⁽¹⁾の観点から、検討等を行いました。

1：原子力施設の耐震性に関する知見の整理フロー（添付 1）

2. 検討結果

原子力事業者に共通する情報（以下、「共通情報」という。）及び高速増殖原型炉もんじゅ及び東海再処理施設サイト固有の情報（以下、「個別情報」という。）については、いずれも「反映が必要な新知見情報」はありませんでした。

「新知見関連情報」及び「参考情報」については、引き続き研究動向を注視していくことを考えており、耐震安全性に係る信頼性の一層の向上に向けた取組を継続的に行って参ります。

(1) 共通情報

分野	反映が必要な 新知見情報	新知見 関連情報	参考情報
活断層	0	0	3
地盤	0	0	1
地震・地震動	0	1	5
建物・構築物	0	0	7
機器・配管系	0	0	1 1
土木構造物	0	0	2
津波	0	0	5
合計	0	1 ⁽²⁾	3 4

2：新知見関連情報 1 件（添付 2）

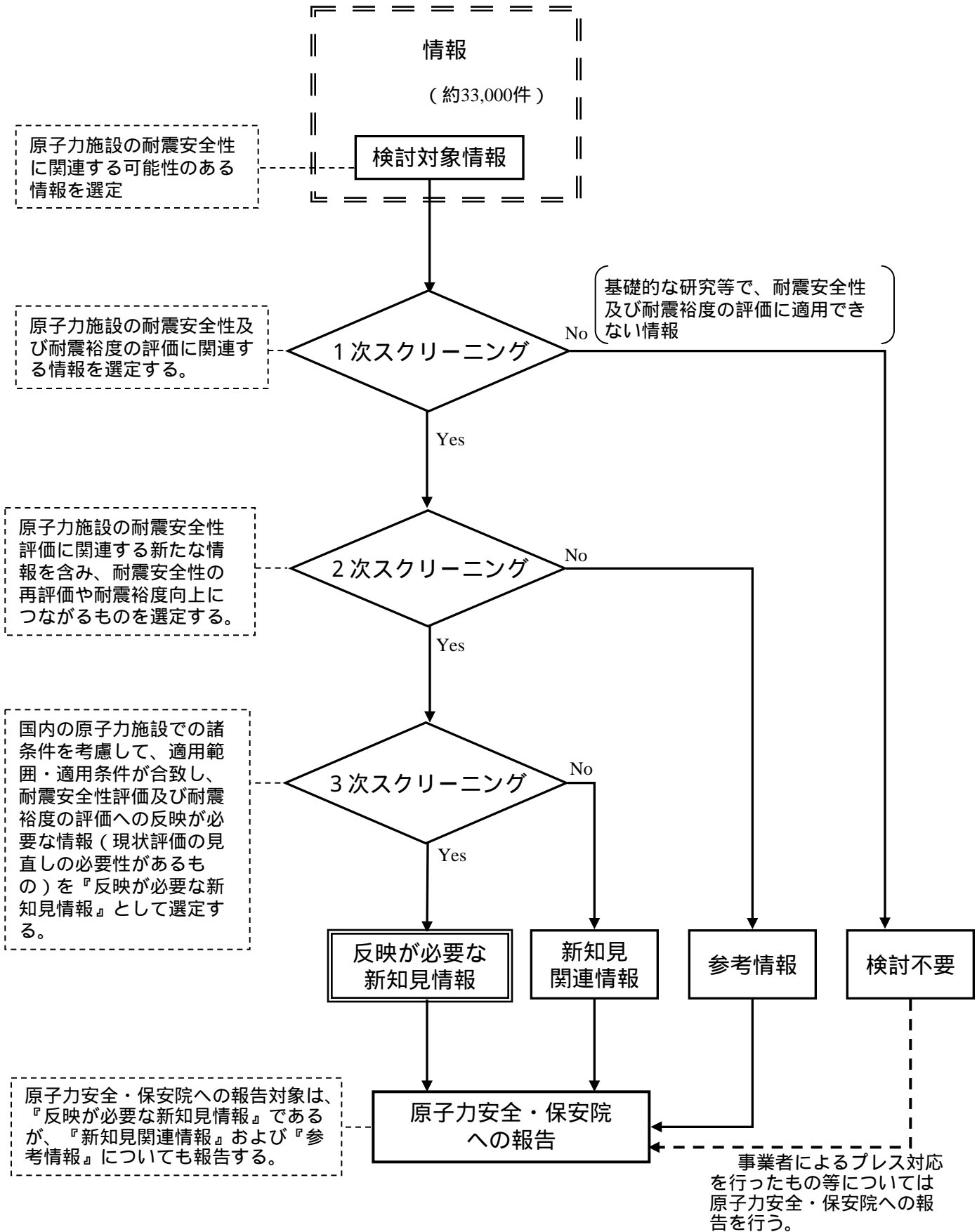
(2) 個別情報

施設名	反映が必要な 新知見情報	新知見 関連情報	参考情報
高速増殖原型炉 もんじゅ	0	0	1 ⁽³⁾
東海再処理施設	0	0	1 ⁽⁴⁾

3：津波分野 1 件、 4：活断層分野 1 件（添付 3）

なお、上記情報以外で、当機構がプレス等により原子力施設の耐震安全性への影響を説明する必要が生じた情報はありませんでした。

以上



原子力施設の耐震性に関する知見の整理フロー

新知見関連情報一覧（共通情報）

分野	著者名	表題	文献誌名	要旨	備考
地震・地震動	地震調査研究推進本部 地震調査委員会	全国地震動予測地図		平成17年3月に「全国を概観した地震動予測地図」報告書を公表し、平成17年以降も、新しいデータに基づき毎年「全国を概観した地震動予測地図」を更新してきた。 これと並行して、近年の調査研究の進捗により得られた新しい知見とデータの積み上げに基づいて、地震動予測手法の改良、地下構造モデルの改良、主要活断層帯の震源断層モデルの構築等の検討を行い、今回、これらの検討結果を新たな評価に反映し、「全国地震動予測地図」として公表した。	

個別情報一覧

【高速増殖原型炉もんじゅ】

分野	著者名	表題	文献誌名	要旨	備考
津波	根本信, 高瀬嗣郎, 長谷部大輔, 横田崇	日本海におけるアスペリティを考慮した津波波源モデルの検討	土木学会論文集B2(海岸工学)	日本海東縁部を対象とし, アスペリティを考慮した想定地震の津波波源モデルについて検討を行った。既往の3地震に対してインバージョン解析を実施し, 断層すべりの不均質特性を把握し, アスペリティを考慮した合理的な津波波源モデルの構築方法を提案した。	

【東海再処理施設】

分野	著者名	表題	文献誌名	要旨	備考
活断層	原口強, 石辺岳男	津波堆積物・隆起イベントから推定される三陸沖中部の巨大地震モデル	月刊地球	三陸海岸の津波堆積物調査から, 最大2mの隆起を伴う津波イベントが500~700年間隔で起こったことが分かった。これらは, 三陸沖中部を震源とするプレート間地震で生じた可能性がある。	